

研究課題名「現局型中部胆管癌に対する肝臓同時切除術の臨床的意義」に関する情報公開

1. 研究の対象

2006年から2020年5月に当院で肝臓同時切除術(以下:HPD)または膵頭十二指腸切除(以下:PD)で切除された胆管癌のうち、術前画像で限局型中部胆管癌と診断された症例を対象とします。

2. 研究目的・方法・研究期間

胆管癌にはしばしば表層進展を認めます。限局型中部胆管癌は腫瘍の局在から、肝門側進展範囲が術式を決定する際に重要な因子となります。しかし、画像診断や生検結果を駆使しても、正確にその進展範囲同定することは困難です。限局型中部胆管癌に対する根治的手術は、HPDとPDが挙げられ、HPDの方がPDよりも上流胆管まで切除することが可能であり、R0切除が期待できます。

一方、HPDはPDと比較して、手術時間長く、出血量が多く、周術期合併症率・死亡率が高いことが知られています。上記腫瘍に対する、HPDまたはPDの適応を決定する際、腫瘍深達度、腫瘍径、肉眼型、画像・生検の進展範囲、リンパ節転移の有無などの腫瘍因子に加え、年齢、性別、BMI、肝機能評価、栄養状態、既往歴、社会的背景などの非腫瘍因子を十分に検討する必要があります。そのため、現実的には外科医の経験や施設の習熟度などで最終的に術式が選択されます。

これまでに限局型中部胆管癌に対するHPDとPDの比較をした報告は皆無であり、PDに対するHPDの上乗せ効果は不明です。

本研究では、中限局型中部胆管癌の特徴と予後を、後方視的に検討し、HPDとPDの手術成績を明らかにします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病歴、手術内容、術後経過、検体結果、病理組織学的検査所見、等。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院 腫瘍外科学 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

研究担当者氏名：名古屋大学大学院 腫瘍外科学 尾上 俊介
(電話 052-744-2222、ファックス 052-744-2230)

研究責任者：名古屋大学 腫瘍外科学 江畑 智希
(電話 052-744-2222、ファックス 052-744-2230)